

インドネシア語

降幡 正志

インドネシア語は、一般にアスペクトを示す文法形式が特にない。また動詞などの時制による語形の変化もない。アスペクトは、いわゆる助動詞¹によって表される。あるいは、場合によって文脈や状況によって判断されることもある。ただし、以下の(12)a や (20)d のように、一部の接辞がアスペクトを表す機能を持ち合わせることもある。

本稿では、提示されたアンケートに対応する形で、インドネシア語の例文を挙げ、解説を加えていく。²

- (1) ~さん (固有名詞) は/あの人は もう来た。
(2) ~さん (固有名詞) は/あの人は もう来ている。

a. Bapak Budi sudah datang.

~氏 ブディ 《完了》 来る

「ブディ氏はもう来た/来ている」

b. Orang itu sudah datang.

人 あの 《完了》 来る

「あの人はもう来た/来ている」

完了を表すには、助動詞 *sudah* 「もう~した/している/である」を用いる。この語は文脈や状況から明らかな場合に “*Sudah?*” 「もう済んだ?」、 “*Ya, sudah.*” 「ええ、もう済んだ」のように動詞などを後に続けず単独で用いることもできる。

フォーマルな文体では、*sudah* の代わりに *telah* がしばしば用いられるが、*telah* は *sudah* のように単独に用いることができない。

なお、(1) の「もう来た」と (2) の「もう来ている」のような区別をすることはなくいずれも “*sudah (telah) ~*” となる。

¹ 「いわゆる助動詞」としたのは、英語その他の言語で助動詞とされる一群の語と同じように、動詞の前に述べることにより一定の意味を示すが、必ずしも動詞のみではなく形容詞（場合によっては名詞）とも結びつくこともあるためである。

² 本稿で用いる文例は、インドネシア語の正書法に基づいて表記する。

(3) ~さん (固有名詞) は/あの人は まだ来ていない.

(4) ~さん (固有名詞) は/あの人は まだ来ない.

a. Bapak Budi belum datang.

~氏 ブディ 《未完了》 来る

「ブディ氏はまだ来ていない/来ない」

b. Orang itu belum datang.

人 あの 《未完了》 来る

「あの人はまだ来ていない/来ない」

belum 「まだ~ない/しない/していない」は, (1), (2) に見られた sudah の否定として対立する未完了の助動詞である. (3) の「まだ来ていない」と (4) の「まだ来ない」のような区別をすることはなく “belum ~” となる.

(5) ~さん (固有名詞) は/あの人は もう (すぐ) 来る.

a. Bapak Budi akan segera datang.

~氏 ブディ 《未来》 直ちに 来る

「ブディ氏はもうすぐ来る」

b. Bapak Budi akan datang segera.

~氏 ブディ 《未来》 来る 直ちに

「ブディ氏はもうすぐ来る」

c. Sebentar lagi Bapak Budi akan datang.

わずかの間 あと ~氏 ブディ 《未来》 来る

「間もなくブディ氏は来る」

「もうすぐ」は, segera 「直ちに」あるいは sebentar lagi 「間もなく」などの副詞 (句) を用いることにより, 語彙的に表される. なお, 「直ちに (もうすぐ) 来る」は “segera datang”(5a) と “datang segera”(5b) の両方の語順を取りうる.

(6) (あっ,) ~さんが来た. [その人が来るのに気づいた場面での発話]

a. Tu, Bapak Budi datang.

ほら ~氏 ブディ 来る

「ほら, ブディ氏が来た」

b. **Tah, Bapak Budi datang.**

ほら ～氏 ブディ 来る

「ほら、ブディ氏が来た」

インドネシア語は時制による語形の変化はない。日本語学でいういわゆる「発見のタ」のようなケースでも、そもそも「過去形」がないので、これを語形で言い分けることがない。

(6)a の *tu* (または *tuh*) は指示詞 *itu* 「それ、あれ」が変化して感嘆詞として用いられ、一般に話し手から遠いところを指して述べる。一方 (6)b の *tah* は *tu/tuh* に比べ近いところを指して述べるが、「ほら (思ったとおり)」といった感じで事象が予想されていた場合にも用いることがある。

(7) おととい、～さんが来たよ。

a. **Bapak Budi datang kemarin.**

～氏 ブディ 来る 昨日

「ブディ氏が昨日来た」

b. **Tiga hari yang lalu Bapak Budi datang.**

3 日 (関係詞) 過ぎた ～氏 ブディ 来る

「3日前に、ブディ氏が来た」

(6) でも述べたように、インドネシア語は時制による語形の変化がない。単純過去を述べるには、*kemarin* 「昨日」や *tiga hari yang lalu* 「3日前」など過去を表す副詞 (句) を用いるか、あるいは文脈により判断することになる。

(8) おととい、～さんは来なかったよ。

a. **Bapak Budi tidak datang kemarin.**

～氏 ブディ 《否定》 来る 昨日

「昨日、ブディ氏は来なかった」

b. **Tiga hari yang lalu Bapak Budi tidak datang.**

3 日 (関係詞) 過ぎた ～氏 ブディ 《否定》 来る

「3日前に、ブディ氏は来なかった」

動詞や形容詞に対しては、否定語として *tidak* を用いる。³ 単に「来ない」「来なかった」という場合には “*tidak datang*” となる。

(9) (私は) あのリンゴを もう食べた。

a. *Saya sudah makan apel itu.*

私 《完了》 食べる リンゴ あの

「私は、あのリンゴをもう食べた」

b. *Saya sudah membaca buku itu.*

私 《完了》 meN-読む 本 あの

「私は、あの本をもう読んだ」

自動詞／他動詞の別で完結相／未完結相が異なることはなく、完了を示すには(1)、(2)と同様に *sudah* を用いる。(9)a の *makan* 「食べる」は、他動詞とするには形態統語的にはかなり特殊な振る舞いをする語であるため、(9)b に他動詞として典型的なパターンをとる *membaca* 「読む」を含む文例を挙げた。⁴

(10) 私はあのリンゴを まだ食べていない／食べない。

a. *Saya belum makan apel itu.*

私 《未完了》 食べる リンゴ あの

「私は、あのリンゴをまだ食べていない／食べない」

b. *Saya belum membaca buku itu.*

私 《未完了》 meN-読む 本 あの

「私は、あの本をまだ読んでいない／読まない」

(3),(4) で述べた *belum* は、(9)と同様に自動詞／他動詞の区別なく用いられる。

(11) あの人は今(ちょうど) そのリンゴを食べています／食べているところです。

a. *Dia sedang makan apel itu.*

彼(女) 《進行》 食べる リンゴ その

「彼(女)は、そのリンゴを食べているところだ」

³ 名詞(または名詞相当句)を否定する場合には、否定語として *bukan* を用いる。

⁴ (9)b の *membaca* 「読む」の語句説明に対して *meN-* とあるのは、対応する主語が動作主であることを示す接頭辞 *meN-* を伴っていることを示す。

b. Dia sedang membaca buku itu.

彼(女) 《進行》 meN-読む 本 その

「彼(女)は、その本を読んでいるところだ」

進行相を表す場合には助動詞 sedang 「～しているところ」を用いる。(6), (7) で述べたように動詞は時制で語形変化をすることがなく、進行形といった文法形式も存在しない。

(12) 窓が開いている／窓が開いていた。

a. Jendelanya terbuka.⁵

窓-その 開いている

「(その) 窓が開いている」

b. Jendelanya buka.

窓-その 開く

「(その) 窓が開いている」

「開いた状態にある」ことを表す語として、(12)a に見られる terbuka があり、これは「開く」を意味する buka が接頭辞 ter- を伴った派生語である。接頭辞 ter- は他動詞性を持つ基語（語幹）に付加されると、一般に被動作主を主語として「すでに～した」「無意識に～した」「～することができる」などの意味を表す派生語を形成する。

なお、口語体では、接頭辞を伴わず基語のままの buka がしばしば用いられる(12b)。

(13) 私は毎朝新聞を読む／読んでいる。

a. Saya membaca koran setiap pagi.

私 読む 新聞 毎 朝

「私は毎朝新聞を読む」

b. Saya biasa membaca koran setiap pagi.

私 普通である 読む 新聞 毎 朝

「私は毎朝新聞を読んでいる」

⁵ -nya は代名詞 ia の前接形。「彼、彼女」を意味するほか、「例の(その)」の意味で用いられることもある。ここでは、どの窓であるかが話し手と聞き手の間で共通に理解されている（と話し手が判断している）ことを表す。

習慣を示すアスペクト形式は特に存在せず, “setiap pagi” 「毎朝」のような副詞(句)など, 語彙的に表すことになる. (13)b のように “biasa ~” 「~するのが普通である」ということで習慣を表すこともできる.

(14) あなたは(あなたの)お母さんに似ている.

a. Anda mirip dengan ibu Anda.

あなた 似ている ~と 母 あなた

「あなたはお母さんに似ている」

b. Dia menikah.

彼(女) meN-結婚する

「彼(女)は結婚した／結婚している」

c. Dia sudah menikah.

彼(女) 《完了》 meN-結婚する

「彼(女)はもう結婚した／結婚している」

すでに述べているように, 現在形・進行形・過去形などといった文法形式は特にな
い. menikah 「結婚する」は, (14)c のように完了を表す助動詞 sudah を伴うことがで
きるが, (14)a の mirip 「似ている」は, 生得的な状態のためか通常は sudah を伴わ
ない.⁶

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた.

a. Waktu itu saya sering pergi ke bioskop.

時 その私 《頻繁》 行く ~へ 映画館

「そのとき私はよく映画館へ行った」

b. Waktu itu saya bersekolah di Bandung.

時 その私 学校 ~で バンドゥン

「そのとき私はバンドゥンで学校に通っていた」

英語の “used to ~” に相当する表現として, (13)b にある “biasa ~” 「~するのが
普通である」や, あるいは (15)a のように “sering ~” 「よく／頻繁に~する」など
が挙げられる. ただし (15)b の bersekolah 「学校に通う」は, これらの表現とはなじま

⁶ ただし状況・状態が「近づく」という意味では, mirip は sudah を伴うことがある.

ないようである。biasa には「慣れる」という意味もあり，“biasa bersekolah (di ~)” とすると「(～で) 学校に通うのに慣れる／慣れた」の意となる。

(16) 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

- a. Saya pernah pergi ke kota Osaka.
私 《経験》 行く ～へ 町 大阪
「私は大阪の町に行ったことがある」
- b. Saya pernah mengunjungi kota Osaka.
私 《経験》 訪れる 町 大阪
「私は大阪の町を訪れたことがある」
- c. Saya pernah ke kota Osaka.
私 《経験》 ～へ 町 大阪
「私は大阪の町に行ったことがある」
- d. Saya tidak pernah ke kota Osaka.
私 《否定》 《経験》 ～へ 町 大阪
「私は大阪の町に行ったことがない」
- e. Saya sudah pernah ke kota Osaka.
私 《完了》 《経験》 ～へ 町 大阪
「私はすでに大阪の町に行ったことがある」
- f. Saya belum pernah ke kota Osaka.
私 《未完了》 《経験》 ～へ 町 大阪
「私はまだ大阪の町に行ったことがない」

経験を表すには、助動詞 pernah 「～したことがある」を用いる。標準インドネシア語としては (16)a, (16)b のように動詞を用いるが、口語では (16)c のように動詞を用いなくても前置詞 ke 「～へ」を用いることでどこかへ行くことがわかる。

pernah を否定するには (16)d のように通常 tidak を用いる。また pernah は完了 (sudah) や未完了 (belum) の助動詞に後続することもできる(16e, 16f)。

(17) やっとバスは 走り出した／走り始めた。

- a. Busnya baru berjalan.
バスーその 《開始》 動く

「バスはやっと動いた」

b. Busnya baru mulai berjalan.

バスーその 《開始》 始まる 動く

「バスはやっと動き始めた」

baru は「やっと～した」「～したばかりである」を意味する助動詞として用いられる。なお, baru は「新しい」という形容詞としての意味もあり, いずれの意味でも非常によく用いられる語である。

(18) きノウ彼女はずっと寝ていた。

a. Semalam dia tidur terus.

ゆうべ 彼(女) 寝る 続ける

「ゆうべ彼(女)はずっと寝ていた」

b. Semalam dia terus tidur.

ゆうべ 彼(女) 続ける 寝る

「ゆうべ彼(女)はずっと寝ていた」

長時間の継続を表す一般的な方法として, terus 「続ける」を用いる。(18)a, (18)b に見られるように, 「～し続ける」は“～ terus”と“terus ～”のいずれの語順もある。

(19) 私はそれをちょっと食べてみた。

a. Saya mencoba makan kue itu.

私 meN-試す 食べる 菓子 その

「私はそのお菓子をちょっと食べてみた」

b. Coba makan kue itu.

試す 食べる 菓子 その

「そのお菓子をちょっと食べてみて」

「ちょっと～する／してみる」という試行の表現には mencoba 「試す」を用いて (19)a のように言う。

命令文として「ちょっと～してみて」と言う場合には, (19)b のように “coba ～” と

いう表現がある。⁷

(20) あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。

a. Dia membagi kue itu kepada semuanya.

彼(女) meN-分ける 菓子 その ~に 皆-その

「彼(女)はそのお菓子をみんなに分けた」

b. Dia membagi-bagikan kue itu kepada mereka semua.

彼(女) meN-分ける 菓子 その ~に 彼ら 皆

「彼(女)はそのお菓子を彼らみんなに分けた」

c. Dia membagi kue itu kepada mereka semua.

彼(女) meN-分ける 菓子 その ~に 彼ら 皆

「彼(女)はそのお菓子を彼らみんなに分けた」

d. Mereka memukuli anak itu.

彼ら meN-何度も殴る 子供 その

「彼らはその子供を繰り返し殴った」

語によっては、動作の繰り返しを表す際に重複(reduplication)を用いることがある。重複は、語全体が単純に繰り返される場合もあれば、(20)a, (20)b の *membagi-bagikan* 「分ける、配布する」のように重複した基語にさらに接辞を付加することもある。なお、分け与える対象が複数であることが明白であれば、(20)c のように重複を伴わない *membagi* 「分ける」を用いても差し支えない。

一部の他動詞については、接尾辞 *-i* を付加することにより「繰り返し(片っ端から) ~する」という意味になるものがある。(20)d の *memukuli* 「何度も殴る」は、他動詞 *memukul* 「殴る」にさらに接尾辞 *-i* が付加している。

⁷ 接頭辞 *meN-* を伴う派生語のうち他動詞は、命令文においては通常 *meN-* を取り去った形を用いる。